

令和2年度 南牧村立南牧中学校 学校評価一覧表 (様式1) No1

羅 針 盤			方 策	アンケート結果			改 善 策
評価対象	評価項目	具体的数値項目		生徒	保護者	職員	
Ⅰ 保護者と共通理解を図りながら教育をすすめていますか。	1 生徒の活動の様子を保護者に連絡し理解を得ていますか。	①「学校や子どもの様子が分かる」と保護者の80%以上が答えている。	ア通信、Web ページ等での情報発信を充実する。 イ南牧テレビを活用し、学校情報の伝達を図る。 ウ保護者の声を聞く機会を充実を図る。	A	A	A	・学校・学年通信の発行、Web ページのこまめな更新を継続し、親しみやすい情報提供を心がける。 ・保護者とのコミュニケーションを大切にして、意思疎通を図れるようにする。
	2 保護者は学校のことを知ろうとしていますか。	②学校やPTAの諸活動に保護者の80%以上が年2回以上参加している。	ア行事内容を工夫し、保護者の関心を高める。 イ年1回以上、授業参観の休日開催を実施する。 ウ各学校行事の通知を配付し、公開する。	A	A	B	・保護者参加型の行事となるよう内容の検討を継続する。 ・生徒の活動を Web ページで発信し、学校の活動に興味を持ってもらう。
Ⅱ 生徒に確かな学力を身に付けていますか。	3 授業の中で生徒一人一人が大切にされていますか。	③「授業が分かる」と80%以上が答えている。 ④生徒の80%以上が授業に満足感をもっている。	ア基礎・基本の確実な定着を図る。 イ個性や能力に配慮し、個別指導の充実を図る。 ア達成感が得られるよう授業展開の工夫を図る。 イ学習過程の共通化「南牧中スタンダード」の改善を図り、指導の充実を図る。	A	A	A	・生徒に必要な個別指導を行うため、TTやICT機器の活用を図る。 ・家庭学習につながるような授業実践を継続する。
	4 自主的な学習習慣が身に付いていますか。	⑤家庭学習や読書を週平均して1日1時間以上生徒の80%以上が行っている。	ア「南牧中ライフ」を活用し、課題意識を持って家庭学習に取り組ませる。 イ読書への意欲を高め、読書を習慣化させる。	A	A	B	・授業で、めあて、まとめ、振り返りの場面を設定し、生徒自身が学習の成果を感じ取り、更に学習事項定着のための家庭学習に取り組めるよう支援する。
Ⅲ 生徒に豊かな心をはぐくんでいますか。	5 いじめのない温かい人間関係を育てていますか。	⑥「いじめの等の悩みがなく、学校生活を過ごしている」と生徒の80%以上が答えている。	ア個々の思いが伝え合える集団作りに取り組む。 イスクールカウンセラー等と協働し、個々の生徒の心の状態を的確に把握する。	A	A	A	・「南牧中ライフ」の記入を通して、生徒自身に学習課題を確認させ、主体的な家庭学習を促す。 ・読書マラソン2020により、読書の習慣化と意欲付けを図る。
	6 生徒は時と場に応じた適切な言動を取っていますか。	⑦生徒の80%以上が進んであいさつしている。 ⑧生徒の80%以上が家庭でお手伝いしている。	ア学校外の家庭や地域等でも挨拶や自立心、協調性等が重要であることを指導し、社会性を育む。 ア道徳教育の充実により勤労意欲の向上を図る。 イ家族の一員としての自覚が高まる雰囲気作りを保護者と連携して進める。	A	A	A	・スクールカウンセラーによる生徒の個人面談を継続し、生徒個々の状態の的確な把握及び早期対処を実施していく。 ・毎月のアンケート結果について職員間で共通理解を図り、全校体制で対応する。
Ⅳ 生徒の健康づくりに努めていますか。	7 生徒は基本的な生活習慣を身に付け健康の保持・増進に努めていますか。	⑨生徒の80%以上が朝食をとっている。 ⑩一日6時間以上の睡眠時間を生徒の80%以上がとっている。	アバランスの良い食生活に向けた指導の充実を図る。 ア生活習慣チェックシートを活用し、睡眠の重要性と時間の使い方の指導を充実する。	A	A	A	・家庭との連携により、自分のことは自分でする習慣が身につくようにする。 ・道徳教育の勤労に関する授業の充実を通して、家族の一員として自分の役割を考え、進んでお手伝いに取り組めるよう、家庭での話し合いを促す。
	8 生徒は日常生活の中で運動に親しんでいますか。	⑪運動（部活動を含む）や地域のスポーツ活動などに生徒の80%以上が取り組んでいる。	ア3年間を見据えた保健体育の教育課程を編成し、指導の充実を図る。 イ部活動の充実を図る。	A	A	A	・栄養士、養護教諭による食育指導や保健指導、通信を通しての啓発活動を継続していく。 ・生活習慣チェックシートを活用し、生徒の生活習慣改善にむけた意識を高める。
Ⅴ 生徒の安全確保を図っていますか。	9 施設・設備の安全管理や危機管理を徹底していますか。	⑫学校は安全（危機）管理マニュアルを確認して、シュミレーションを年2回以上実施している。	ア災害時等の状況にあった避難方法や危険回避が各自でできるよう日々の安全教育を充実するとともに、実践的な避難訓練を実施する。 イ安全点検の定例実施により、安全確保を図る。	A	A	A	・部活動・保健体育に限らず、運動に親しむ機会を設ける。 ・健康、安全面に注意を払った部活指導を継続していく。
	10 交通事故や不審者への対策を十分にとっていますか。	⑬学校は地域の諸機関と年2回以上協議し、地区内の危険個所の対応策をとっている。	ア自転車通学の交通安全指導を充実させる。 イ不審者対策マニュアルの周知・改善を図る。 ウ生徒の危険回避能力や安全管理能力の向上を図る。	A	A	B	・非通知の避難訓練を実施するなど、発生が予想される災害に対して生徒が自分で自分の身を守る行動がとれるよう、より実践的な安全学習を行う。 ・毎月の安全点検結果をもとに、施設の安全確保に努めるとともに、安全に関わる情報を職員間で共通理解し、全校体制で生徒の安全に努める。
Ⅵ 生徒が自ら進路選択できるよう支援していますか。	11 進路についての学習や指導態勢を改善・充実していますか。	⑭学級活動における進路学習や啓発的な体験活動を通して生徒の80%以上が自己の生き方を考えている。	アふるさと朝礼を通じて、社会生活や職業生活における進路学習の有用性を認識させる。 イ外部講師の積極的な活用や職場体験等の活動の推進により、キャリア教育の充実を図る。	A	B	A	・校区内のパトロールを定期的に実施し、通学路の安全チェックを行い、要注意箇所等の情報の共有化を図る。 ・不審者対応の訓練を実施するとともに、身の守り方を学ぶ機会を持つ。
	12 生徒は将来の夢や希望を持っていますか。	⑮将来の夢や希望する進路について生徒の80%以上が親子で年2回以上話し合っている。	ア向上の記録や通知表、通信等により、進路について家庭で話し合いが持てるよう働きかける。	A	B	A	・ふるさと朝礼を通じて、自己の将来について考える機会を継続して設ける。 ・定期的な福祉ボランティア活動を通じて、仕事に対するやり甲斐を感じることでできる機会を数多く持たせる。
Ⅶ 学校教育目標	13 「進んで学習や読書に取り組む生徒」になってきていると思いますか。	⑯「進んで学習や読書に取り組む生徒」と80%以上が答えている。	ア「南牧中ライフ」を活用して授業の振り返りと自主学習のつながりを明確にし、自発的な家庭学習を促す。 イ朝読書の時間を確保し、読書習慣の形成を図る。	A	A	A	・3年間を通じた計画的な進路指導を継続する。 ・生徒と保護者との話し合いが家庭で持てるように、向上の記録や通知表を渡すタイミングで定期的に働きかけを行う。
	14 「互いに認め合い、協力する生徒」になってきていると思いますか。	⑰「互いに認め合い、協力する生徒」と80%以上が答えている。	ア生徒一人一人が尊重され、自己存在感や有用感を実感できるような活動を実施する。 イさわやかホームでのボランティア活動等を通じて、思いやりや協調性を育む。	A	A	A	・「南牧中ライフ」の記入事項の改善を図るとともに活用の仕方を伝え、家庭学習の自発性が高まるようにする。 ・読み聞かせ、読書マラソン等の機会を設け、読書への関心を高める。 ・生徒の興味関心に即した選書により新しい本を購入し、本への親しみを増やす。
	15 「目標に向かって粘り強く努力する生徒」になってきていると思いますか。	⑱「目標に向かって粘り強く努力する生徒」と80%以上が答えている。	ア生徒が自己の進路に希望を持ち、その実現に向けて取組を続けていけるよう、支援し励ます。 イ学習や部活動で自分なりの目標を持たせ、達成に向けた具体的な方法を考えさせる。	A	A	A	・Web ページや各通信を通して、生徒の活躍を積極的に伝えることで、生徒自身が自己存在感や有用感を持てるようにする。 ・定期的な福祉ボランティア活動を通じて、協力したり思いやりを持って取り組んだりすることの大切さを考えさせる。
	16 「ふるさとに誇りをもち大切にしている生徒」になっていきますか。	⑲「ふるさとに誇りをもち大切にしている生徒」と80%以上が答えている。	ア地域の自然や文化に目を向けてそのよさを実感できるような体験を学習活動に取り入れる。 イ知ったよさを他の人に伝えるための表現力や発信力を育む。	A	A	A	・個に応じた指導を通して、生徒自身が自分の将来を展望しながら現時点での具体的な目標を設定しその達成に向けた取り組みができるようにする。 ・キャリア教育を計画的に実施し、目標に向けて取り組むべき事を考える経験を積ませる。
				A	B	B	・生徒の目が地域のよさに向くような内容・題材を、授業やふるさと朝礼等で取り上げ、興味関心を高める。 ・学んだことをまとめて発表したり、話を聞いた感想を発表したりする経験を積ませる。

※アンケート結果A：80%以上 B：60%以上 C：50%以下

令和２年度 南牧村立南牧中学校 学校評価一覧表 (様式１) No 2

羅 針 盤			方 策	アンケート結果			改 善 策
評価対象	評価項目	具体的数値項目		生徒	保護者	職員	
Ⅷ 資質・能力の向上	17 教師としての使命感・責任感を自覚し教育実践に努めますか。	㊸「教師としての使命感・責任感を自覚し教育実践に努めている」と教職員の80%以上が答えている。	ア当初申告の目標設定を明確にし、生徒とともに学びながら、その達成に向けて努力する。 イ温かさや厳しさをもちながら師弟同行の精神で学校運営に携わる。			A	・職員会議で学校課題について話し合う機会を設ける。 ・人事評価面談の時間を十分に確保し、学校経営方針と個人目標のすり合わせを行う。
	18 校内研修は、教職員の資質向上と授業改善に結びついていますか。	㊸「校内研修は、教職員の資質向上と授業改善に結びついている」と教職員の80%以上が答えている。	ア校内研修等充実支援事業を活用し、研究内容を深める。 イ授業研究を中心とした研究内容とし、各教科で習得したことを活用して課題解決できる生徒の育成に取り組む。			A	・互いの授業を参観し、学び合う。 ・学習で効果のあった取組について情報共有する。 ・一人一研究授業とその後の授業検討会の時間を確保し、指導力向上を図る。
	19 服務規律行動計画に基づき、行動をチェックし、服務規律を遵守していますか。	㊸「服務規律行動計画に基づき、行動をチェックし、服務規律を遵守している」と教職員の80%以上が答えている。	ア規律確保行動チェックリストを活用し、定期的に自己チェックを行う。 イ管理職による指導に加え、事例研究により服務規律を遵守しようとする認識を高める。			A	・新聞記事等の事例提示を行い、意識化を図る。 ・定期的に管理職による声かけを行う。 ・チェックリスト結果を回覧し、服務規律確保に向けての認識を高める。
Ⅸ 小中連携	20 小学校との連携・調整・交流を積極的に推進していますか。	㊸「小学校との連携・調整・交流を積極的に推進していますか」と教職員の80%以上が答えている。	ア各学期に小中連携会議を持ち、学習指導・生活指導において小中一貫した指導の方策について話し合う。 イ職員の兼務を生かして、連携を推進し、継続的に計画性のある教育活動を推進する。			B	・今年度はコロナ感染症の関係で、連携会議が実施できていないため、情報交換をより密にしていく。 ・兼務職員からの情報を職員間で共有する。 ・コロナ対策も共通理解・同一歩調で進める。
	21 小学校との情報交換を生徒の理解や指導に生かしていますか。	㊸「小学校との情報交換を生徒の理解や指導に生かしている」と教職員の80%以上が答えている。	ア情報交換の記録を残し、情報共有を図る。 イ情報交換の記録を会議で確認して、個々の教職員の指導に活用する。			A	・要対協の会議の場を利用し、各校の実情の把握と関係機関との連携・調整を図る。 ・必要に応じて小学校時の指導記録を提供してもらい、生徒指導の参考にする。
Ⅹ 環境整備	22 学校は、教育環境を整備し、教育活動の円滑化を進めていますか。	㊸「学校は、教育環境を整備し、教育活動の円滑化を進めている」と教職員の80%以上が答えている。	ア毎月の安全点検結果をもとに、担当箇所の環境改善を図る。 イ必要な教材・教具等について、予算の範囲内で計画的に準備し、改善を図っていく。			A	・毎月の安全点検をもとに改善箇所を確認し、迅速に改善に取り組む。 ・気付いた人が指摘し、職員全体で環境整備を行っていくようにする。
	23 校務の効率化を意識し、工夫して職務を遂行していますか。	㊸「校務の効率化を意識し、工夫して職務を遂行している」と教職員の80%以上が答えている。	ア校務データの整理を適切に行い、有効に活用できるようにする。 イ限られた時間を有効に使う意識を高める。			A	・電子データの保存方法を見直し、データ活用による校務の効率化を図る。 ・遅くとも19時までには業務を済ませるよう、互いに声かけを行うようにする。

※アンケート結果 A：80%以上 B：60%以上 C：50%以下

令和 2 年度 南牧村立南牧中学校 学校評価一覧表 (様式 1) No 3

羅 針 盤			方 策	アンケート結果			改 善 策
評価対象	評価項目	具体的数値項目		生徒	保護者	職員	
XI 組織運営	24 学校の教育目標達成に向け、管理職・教職員が一体となって努力していますか。	㊹「学校教育目標の達成に向けて教職員が一体となって努力している」と教職員の80%以上が答えている。	ア全教職員が校長の経営方針や学校教育目標について共通理解する場を設ける。 イ学校課題解決に向けた方策を教職員が共通理解して取り組むようにする。			A	・職員会議で学校課題について話し合う機会を設ける。 ・当初面談を通して、学校課題を踏まえた個人目標が設定できるようにする。
	25 日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に話し合える職場の人間関係を作るようにしていますか。	㊺「教育活動の問題意識や悩みについて気軽に話し合える職場の雰囲気がある」と教職員の80%以上が答えている。	ア小規模校の利点を生かし、生徒の情報交換を職員室で活発に行う等、全教職員が全生徒を理解して、指導に当たる体制を作る。 (ネットワーク)			A	・生徒指導に関する情報を一元管理し、全職員で共通理解し指導に当たるようにする。 ・職員会議における生徒指導についての情報交換を継続し、共通理解のもと、組織的な対応を心がける。
	26 教職員は設定した自己目標の達成に向け、主体的に日常の教育実践に取り組んでいますか。	㊻「設定した自己目標の達成に向け、主体的に日常の教育実践に取り組んでいる」と教職員の80%以上が答えている。	ア面談を通して教職員の職務に対する意欲を高める。 イ授業参観後の授業者への指導・支援を通して授業改善への意欲を高める。			A	・目標を達成するための道筋が明確になるような中間面談の話し合いを心がける。 ・互いの授業を参観し、意見交換を行うことで、授業改善につなげる。 ・効果的な実践を相互に情報共有・活用し合う。
	27 職員会議が、校長の経営方針を踏まえた情報交換や課題検討の場として機能していますか。	㊼「職員会議が、校長の経営方針を踏まえた情報交換や課題検討の場として機能している」と教職員の80%以上が答えている。	ア生徒の情報交換の場を設定し、対応策等を教職員全員で共通理解して指導に当たるようにする。 (チームワーク)			A	・職員会議で学校課題について話し合う機会を設ける。 ・資料を事前に配付し、各自内容を確認してもらうことで、実質的な課題検討の時間を確保する。
	28 PDCA サイクルを確立して学校評価を行い、改善策を具体化していますか。	㊽「PDCA サイクルを確立して学校評価を行い、改善策を具体化している」と教職員の80%以上が答えている。	ア羅針盤作成に全教職員がかかわるようにする。 イ外部アンケート等の結果を踏まえた改善策及び学校経営評価による改善策を具体化して実践する。 (フットワーク)			A	・学校評価の結果をもとに、教職員一人一人が改善策を考える機会を持つ。 ・学校評価における問題点の改善策を全職員で検討し、全校体制で改善を図っていく。
	29 適材適所を配置して校務分掌が組織され、機能していますか。	㊾「適材適所を配置して校務分掌が組織され、機能している」と教職員の80%以上が答えている。	ア教職員の資質・能力・適性に合わせ、全教職員の共通理解を図り、偏りのない分掌組織とする。			A	・個人の適性や各分掌における仕事量を考慮し、分担バランスを考え、担当を決定する。 ・分担協力して効率よく業務をすすめられるように主副担当制や複数担当制を取り入れる。
	30 各種文書・データは分掌ごとに適切に管理されていますか。	㊿「各種文書やデータは分掌ごとに適切に管理されている」と教職員の80%以上が答えている。	ア分掌データをサーバー機で管理し、確実に引き継ぐようにする。			A	・データのバックアップを適切に行う。 ・情報担当を中心に、適切な場所に適切な形でデータが保存されるよう整理を促す。
	31 個人情報 that 確実に保護されるよう管理されていますか。	㊽㉿「個人情報 that 確実に保護されるよう管理されている」と教職員の80%以上が答えている。	ア個人情報は学校外持ち出し禁止とする。 イ個人情報の入ったファイルにはパスワード設定をする。			A	・個人情報ファイルのパスワード設定の方法を全体で定期的に確認する。 ・Web ページから個人情報が流失しないよう掲載可能情報について職員間で共通理解を図る。
	32 教育活動の必要な場面で地域の教育力を効果的に活用していますか。	㊽㊰「教育活動の必要な場面で地域の教育力を効果的に活用している」と教職員の80%以上が答えている。	ア年間指導計画を見通して、地域の人材や施設設備、自然を活用した学習計画を立てる。 イ学校支援センターを充実させる。			A	・ふるさと朝礼、総合的な学習の時間等における地域人材の活用を継続していく。 ・家庭、地域との連携・協働の在り方や具体的な目標・計画を学校運営協議会で検討する。

※アンケート結果 A：80%以上 B：60%以上 C：50%以下